

2024年4月17日(水)第三水曜祈祷会

出エジプト記12章15～36節

「神のことばの成った夜」

【昨日の振り返り】『過越』 出エジプト記12章1～14節

「記念となる」…過越こそは、イスラエルの奴隷からの解放の日、救いの日である。

【観察と黙想】 *

1. 種なしパンの祭りの指示(15～20節)

①ここでの「パン種」は何を象徴していますか。

→

②「種なしパンの祭り」は、何を記念したのですか。

→

③「イスラエルの会衆から断ち切られる」とは、何を表していますか。

→

2. モーセの命令と人々の従順(12章21～28節) *「滅ぼす者」…御使い(マタイ13:40～42)

①モーセはイスラエルの人々にどんな命令をしましたか(21節～)。

→

②主はなぜ約束の地に入ってからこの儀式を守るように命じられたのですか。

→

③人々は命じられたとおりに行う前に何をしましたか。

→

3. 第十のわざわい～長子の死～(12章29～36節)

①第十の災禍はどのように起こりましたか。

→

②「私のためにも祝福を祈れ」とは、ファラオの何を表していますか。

→

③イスラエルの子らがエジプト人に銀の飾りや金の飾りを求めるとどうなりましたか。

→

【適用と分かち合い】

①「過越の祭り」「種なしパンの祭り」は、どういう点で今日の聖餐式の「型」と言えますか。

②エジプトから救い出される前に、人々はどんな思いで礼拝を献げたと思いますか。

③第十の災禍は、私たち人間に何を教えていますか。

「主を恐れるなら、いのちに至る。満ち足りて住み、わざわいにあわない。」 (箴言19:23)